

(様式2)



2022年8月1日

京丹後市議会議長 様

会 派 名

創明

代表者氏名

永井 友昭



調査研究等報告書

下記のとおり実施しましたので報告します。

記

- 1 日程 令和4年7月28日(木)から7月29日(金)
- 2 場所 7/28、一般社団法人 持続可能な地域社会総合研究所 島根県益田市
7/29、益田市二条里づくりの会、地元スーパー「キヌヤ」、益田市真砂公民館の市内3カ所
- 3 目的 地方都市の人口問題や地域作りについての先進の研究、踏査、実践を学ぶ。
- 4 該当する政務活動費の使途項目 調査研究費
- 5 支出経費の内訳と金額

①会場への往復旅費	浜岡の自家用車を使用	約23,000円
②7/28の宿泊費		19,800円
③調査、視察、資料費		58,000円
- 6 参加議員名 永井 友昭 浜岡 大二郎
- 7 活動成果の概要、所見

1日目、持続可能な地域社会総合研究所の所長藤山浩氏に人口減に悩む多くの自治体の現状とその原因の構造を踏まえた京丹後市の実態と改善への具体策のアドバイスを受け、いろいろと質疑応答。京丹後市は6町が合併してできたまち、

地域によって実態が違う。36 地域ごとに細かい実態の診断をして、将来の予測を立て、住民参加の地域活性化と人口の社会増を目指す具体的な計画を立てなければ成功は期しがたいということを痛感させられた。

2 日目、藤山氏の関係された地域事業から 3 つの紹介を受けそこを訊ねた。

①益田市南西部の二条地区、地域での猿害対策について視察。独自の猿捕獲檻を行政が設置しそれを地域のボランティアグループが活用して多くの成果を上げている実態を現場で説明していただく。活動を維持していけるノウハウやジビエの取り組みの工夫など得る物は多かった。

②地元のスーパー「キヌヤ」の本店を視察。店に入るとまず正面に「地のもんひろば」というコーナーがドーンと広がる。全商品の中での地元産の取り扱い率は 16%、この手の業界では破格の数字とのこと。

③益田市東部中山間の真砂地区。かつて 2000 人の人口が 400 人台となった約 10 年前から、高齢者も女性も子ども達も参加できる様々な取り組みを一つずつ積み上げて、元気な地域作りのモデル地区として文科大臣賞を 2 度も受賞された。現在、生徒 13 人の小学校と園児 14 人の保育園を含み、公民館、診療所、自治組織事務所、消防防災拠点、高齢者交流施設、農業公園などを一体化した複合施設をかつての中学校跡地に現在建設中。このようなことが可能であるということに衝撃を受け、京丹後市が向かうべき姿がここにあると確信した。

8 成果物、資料等

地方自治体の人口減少問題に取り組む基本的な意識のあり方、分析の方法、それに基づく地域住民のステップアップと行政の関わり方など最も肝要な知見を得ることができた。その上で、実際の地域作りの現場にある方々の飾らない言葉と実践にも触れて、京丹後でもできるはずだという思いを強く持った。